

## 臨床研究「ステロイド関連大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存治療: 自然経過との比較」について

筑波大学附属病院整形外科及び千葉大学附属病院整形外科では、標題の臨床研究を実施しております。  
本研究の概要は以下の通りです。

### ① 研究の目的

大腿骨頭壊死症は大腿骨の骨頭といわれる部分の骨が壊死してしまう疾患です。壊死した骨は、骨頭の圧潰(潰れること)をきたし変形性股関節症に至ってしまう可能性があります。大腿骨頭壊死は、様々な原因との関連が言われており、その一つにステロイド薬があげられています。筑波大学では、2003年より骨髄血を移植して壊死部分に骨形成を促す臨床研究(濃縮自家骨髄血移植)を行ってまいりました。これは腸骨(骨盤の骨)から骨髄血を採取して濃縮し壊死骨内に移植する手術で、壊死部分に新たに骨が形成されることで圧潰の発生・進行を抑える効果を期待しております。本研究では患者様方の手術後の経過を調査し、手術せずに自然経過を観察されていた方々と比べることで、どのくらい圧潰の発生・進行を抑える効果があったのかを後ろ向きに検討し、今後の治療に役立てたいと考えております。

### ② 研究対象:以下の(A)または(B)に該当する方を対象とします。

(A) 1988年から2016年の間に筑波大学附属病院でステロイドに起因する大腿骨頭壊死症と診断された患者様のうち、同院で濃縮自家骨髄血移植を受けた患者様

(B) 1988年から2016年の間に千葉大学附属病院でステロイドに起因する大腿骨頭壊死症と診断された患者様のうち、同院で保存治療を受けた患者様

### ③ 研究期間:倫理委員会承認後 ～ 2020年3月31日まで

### ④ 研究の方法

今回の臨床研究では、過去に行われた診療記録(カルテ記録)、検査データ、画像データを参照しながらデータを集める後ろ向き研究で、患者様に新たなご負担を強いることはありません。また、個々の患者様が特定できるような個人情報は一切省き、データは匿名化して使用します。

### ⑤ 試料・情報の項目:診療記録、検査データ、画像データ

### ⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学 医学医療系 整形外科 運動器再生医療学 准教授 吉岡 友和

### ⑦ 研究機関名・研究者名

筑波大学 医学医療系 整形外科(○:代表者)

○吉岡 友和、都丸 洋平、菅谷 久、三島 初、山崎 正志

千葉大学 大学院医学研究院 整形外科学

中村 順一、縄田 健斗、萩原 茂生、大鳥 精司

### ⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族(ご遺族)が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の間い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もごさいます。

### ⑨ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院 〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1

所属・担当者名:整形外科 運動器再生医療学 吉岡 友和

電話/FAX:029-853-3219/029-853-3162

対応可能時間:平日9～17時